

254) 空白の一年間

けんか 喧嘩して途切れた会話	いつまでも戻って来ない
あしおと 砂利道の足音だけが	せいじやく 静寂の街を貫く
こお 凍りつく無言の時間が	どのぐらい過ぎただろうか
「さよなら」とひとこと言って	闇の中走り出してた
ほんとうはわたしの名前	呼び止めてほしかったのに
あの日から一年過ぎて	一通のメールが着いた
「もう一度やり直そう」と	せつせつと記されていた
過ぎた日に逆戻りする	そんなのは嫌だったから
わけ 理由もなく遅れて行って	言い訳もしなかったけど
北風の吹きつける中	あの人は待っていてくれた
わがままはあの日も今日も	いつだってわたしだったの
あの人のかじかんだ手に	唇を押し当てた時
わだかまる心が溶けて	ぬく 温もりを取り戻してた
この恋がまるで昔の	みちたりた愛の姿に
少しづつ近づくように	安らぎに満たされてゆく
こんなにも愛を感じて	こんなにも素直になって
今までは気づかなかった	倅せをかみしめている
いつまでも <small>あたた</small> 温めあって	いつまでも一緒にいたい
ぬく 温もりを求めるように	今日の日を生きてゆきたい
空白の一年間が	この愛を教えてくれた